

おおぞらだより

第27号

令和7年 12月 発行
社会福祉法人兵庫県社会福祉事業団
おおぞらのいえ
〒651-2181 神戸市西区曙町1070
TEL (078)927-2727
FAX (078)925-9253



あいさつ

令和七年十二月 吉日



おおぞらのいえ 所長 中西 潤

平素は、おおぞらのいえの運営について格別のご理解、ご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、令和7年も終わりを迎えようとしていますが、3月までは今年度で現在は次年度に向けて計画を立てていく時期です。

まずは子どもたちの日々の生活を考えた事業計画です。年間行事だけでなく、個別の支援計画においては目標や進路についても家庭・学校と連携して検討していきます。また、施設の整備についても具体的に計画を立てる必要があります。

次に事業を進めていくための予算です。次年度予算については今年度中に計画を立て交渉します。行事も整備も予算なくしては実施できません。ただ、施設利用に伴う収入確保にも努めていく必要があります。

最後は最も大切な人材です。特に入所施設においては24時間利用者がいない時間はありません。次年度に向けて検討し、現場だけでなく医療も事務も充足させたいと思います。

事業・予算・人事はどれも欠けても施設は成り立ちません。現時点の検討が次年度につながると考えています。おおぞらのいえはこれからも子どもたちに寄り添い、笑顔の絶えない施設を目指しています。職員一同、共に成長し合えるように頑張ります。まいりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

児童発達支援事業所

おおぞらのいえ運動会

2025

おおぞら万博 うんどうかい

くみらいへく



おおぞらのいえ児童発達支援事業所では、9月19日、

『2025 おおぞら万博 うんどうかい くみらいへく』

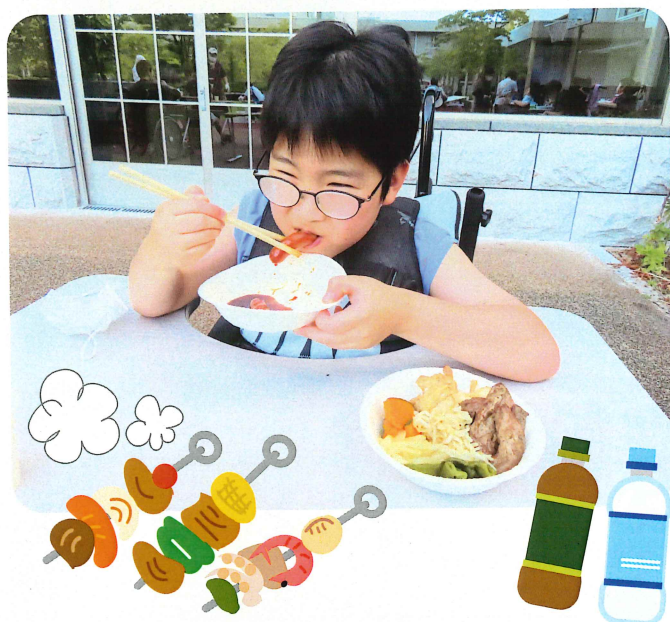
を開催しました。利用児9名、利用児の家族18名、総勢27名の参加となりました。今年度は「うんどうかい」をテーマに、普段の活動で取り組んできた歌や体操、リズム走、サーキットをプログラムに組み込みました。練習を重ねゴールに向かって走る姿や、前転を一生懸命に取り組む姿に、くみらいへ向かうと子どもたちの力強さを感じました。本番ではいつも以上に張り切って体操をする子、後ろ回りや開脚跳びに挑戦する子もいて、職員も驚く場面がたくさんありました。保護者からも、「頑張っている姿を見られてよかった。」「成長を感じた。」等の感想があり、昨年よりまた一段とたくましく成長した子どもたちを、誇らしく感じた運動会でした。



「夏休みの思い出」

今年の夏休みも、バーベキューをしたり外出したりして子どもたちの笑顔がふれる日々となりました。毎年恒例のバーベキューでは、炭火で焼いたお肉やお野菜の香ばしい匂いに大盛り上がり！夜には手持ち花火を見て歓声があがりました。外出はグループに分かれてショッピング、

映画鑑賞、フードコートや回転寿司に行きました。回転寿司では、注文したお寿司がレーンを流れて届くたびに「きたきたー」と声が弾み、到着を知らせるBGMを聞いて楽しんでいる子どももいました。また、今年もディズニー・オン・アイスにご招待いただき、氷上のキャラクターたちに声を掛けたり、帰所後には「ミッキーにまた会いたい」と目を輝かせたりしていました。他にもたくさんさんの体験を通して、それぞれに素敵な思い出ができた夏となりました。



「手づくり」

お月見団子」

お月見の日に子どもたちと一緒に白玉団子作りをしました。こねて丸めて茹で上がった団子を食べて「もちもち」と嬉しそう。自分たちで作った達成感を感じながらみんなで楽しく味わい、笑顔あふれる時間を過ごしました。



スタッフ紹介



支援員 石川 芽美 (いしかわ めいみ)

4月から勤務しています。初めて児童の施設で勤務しているので、大変な部分もありますが毎日充実しています。子どもたちのやりたいことに全力で向き合っていきたいと思っています。これからもよろしくお願いします。



支援員 重 七生 (しげ ななみ)

おおぞらのいえで勤務させていただき、半年が経ちました。子どもたちとの生活は新しいことの連続で、自分自身成長させてもらっていると感じます。子どもたちが楽しく安心して過ごせるよう尽力致します。よろしくお願いします。

編集 後記

おおぞらだより27号が完成いたしました。今年度もたくさんの活動を通して、子どもたちの成長や笑顔を多く見ることでとても嬉しく思います。来年度も子どもたちのいろいろな姿を皆様にお届けできるようにしたいです。